

2024 年 6 月 15 日

「アマチュア無線の魅力向上アイデア」提案書

1. 提案者
  - ・氏名：細田 時弘
  - ・年齢：
  - ・コールサイン：J K 1 U E G
  - ・連絡先 住 所：
  - ・メール：
  - ・（グループの場合）代表者以外の構成員の氏名・年齢：
2. 提案カテゴリ（AまたはBを選択）
  - ~~A 既に開局している若者や初心者にとっての魅力を一層高めるアイデア~~
  - B アマチュア無線を知らない若者に興味を抱かせ資格取得を動機づけるアイデア
3. アイディア名： 50MHz を入門バンドへ（住みやすい場所の提供）
4. アイディアの概要（200 字以内）：

30 年以上かかって減じた局数は、それなりにの期間がなければ回復はできない。  
それにもかかわらずに 即効性のあるような対応ばかりに気を取られてしまい。  
結果 何をしても若者に振り向いてもらえない  
「何をしたらいいのか？」ではなく「何が障害になっているのか？」を考えて  
「何かをする」のではなく「障害になっているものを取り除く」  
ということを進めて行く。そのためのアイデアの1つ
5. 詳細説明（図表を含めて 4 頁以内）：

別ページへ
6. 参考情報（任意）
  - ・ 参考資料：なし
  - ・ Web 情報：なし

局数減少と高齢化 無線に限らず興味の多様性が多くある現在。

「アマチュア無線を知らない若者に興味を抱かせ」

「資格取得を動機づける」ことは→ 過去に渡り局数が減じていることから いきなり上昇に転じることは無理である。と結論が出る

ではなぜ無理なのか？ 現状の把握をしっかり行い、**打開のきっかけ**を作り出すことは可能ではないか？ 振り返って現状を観察してみる。

### かつて隆盛を誇ったシャッター商店街

いろいろな原因から客数減少しまった 地方に大型店舗ができてしまって客を大型店舗に取られてしまった結果だ。

商売を休止してしまいシャッターを閉めてしまった。結果さらに客数が減りシャッターが増加するという悪循環を繰り返す。

結果、商店街の8割9割が営業をしてない状態が訪れてしまっている。これがシャッター商店街だ。住居兼店舗だったりするので、営業をやめても自宅として利用しているために立ち退くこともない。→（所有者は困ってない）

### かつて隆盛を誇ったアマチュア無線

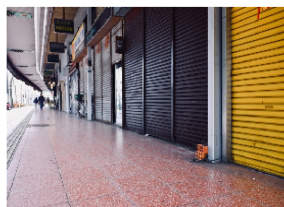
いろいろな原因から局数減少しまった 携帯電話などができてしまって利用者は便利な 携帯電話網に取られてしまった結果だ。

客数が減ってしまったので誰も出てこない。結果さらに局数が減り誰ともつながらないという悪循環を繰り返す。

結果 無線で交信をするための装備があっても、決まった局としか交信しない局が多くなった。→（無線を使わなくても利用者は困ってない）

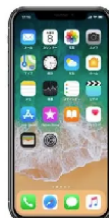
### 来てもらうための工夫

各店舗がバラバラに活動してはダメで 統一した内容 活動が必要



自宅だから  
倉庫だから  
またいつか人が来たら復活しよう  
かつて儲かった

シャッター商店街



PHSの登場



通信手段の変化

公開運用やそれに伴い体験局なども開催されて 無線を知らない人にアピールするチャンスが多く設けられている。

- (1) 免許の取得しやすいような CBT 方式 初心者のための講習会などもあるがほぼそのすべてが

興味を持つ→即免許

という流れで考えてないか？

- (2) 無線に触れ合い興味を持たせる前段階と 興味を持ってからの免許までは 長い期間が存在し、免許を持ってから運用を持続してもらう部分がまったく抜けてないか？

免許さえ取らせれば終わりと思っている部分に問題があるのではないか？

- (3) 少子化といえども 13-20 歳の人口は日本国内で 1000 万人もいる

ここにアプローチしない限り何も変わらない

入門者に対して念仏のように“免許”“免許”“免許”って

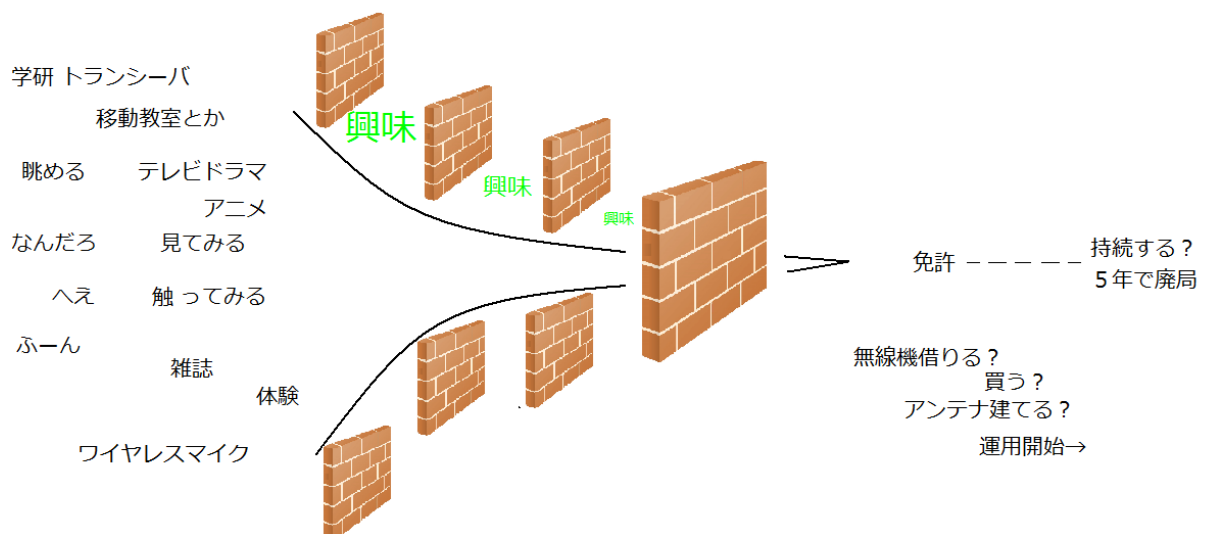
いうのをやめて免許の必要のないトランシーバーごっこができる環境を整備して 自由に遊んでもらうことはできないか？

ライセンスフリー無線を下に見てないか？

無線の第 1 歩は、離れていても相手の声が聞こえる

ここが大事。交信の相手は 友人知人から始める 知らない人とは話してもつまらない・

興味 → 免許



なにかを始める時に門戸をたたくという言葉があるが 「無線ってなんだろう？」って思ったときに叩く門戸はあるか？ “記念局を運用” “体験局” “ボランティア” “学校での運用” たくさんのチャンスを作っているのに チャンスだけあって門戸がないのではないか？



←叩けない

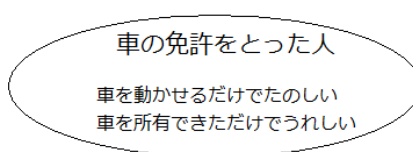
まず遠くから見てもらう→いきなり体験など無理  
 見てもらうときに 運用者と案内者を分ける 運用しながら案内など無理。  
 体験してくれるということになったら・・・  
 体験するバンドやモードなどを固定化する  
 たとえば また次回体験することになったら {こないだとちがう} ってことになる 統一された 体験を提供できてないのは問題  
 電信やれ や HF は面白いぞ 海外交信で英語の勉強  
 などという 技量向上が必要なことは避ける

初心者は数m先と音声伝わるんだよ。ってことだけで満足する  
 免許が必要なんだよ・・・→面倒じゃん って思われる。  
 電信 HF 海外交信免許などという言葉は体験が進んでからでも遅くない。  
 興味を切らさない体験のためのカリキュラムを決めておく。

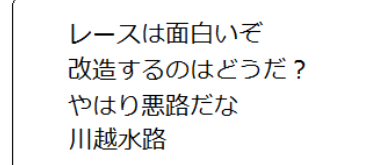
初心者の望むこと



気持ち



やってしまいがちなこと



登山をする



小高い山に来た人

山に来ただけでたのしい  
 頂上に来てうれしい

やはり富士山のぼらなきや  
 外国はいいぞ  
 冬登山は醍醐味だ

新規参入局激減 焦る気持ちはわかるのだが、減少はここ 30 年以上続いている

- 30 年以上かって減少した局数はすぐには戻らない
- “即効性のある内容” で活動をしたくなる

一方で 魅力があれば人は集まる 人が集まれば魅力も生まれる  
人が集まれば 2 次商売 3 次商売をする人が現れる

### 体験方法の統一化

無線の体験などの方法を統一化する

体験運用や 媒体での案内などをすべて統一して、無線の運用のひな形を作りそれを統一する 同一カリキュラムを同じにする。

どの体験にいても案内されるのは同じ内容 同じレベルでの案内。  
体験する場所 体験する無線機 体験する内容 すべての場所で統一させる。  
フォネティックなどの一般生活にないルールやカード交換などのお約束もいったん引っ込める。

### 入門バンドの定義

入門バンドも決めてしまう

435MHz を使うか？145MHz か？

不法運用の渦巻くバンドはダメだろう・・・

50MHz はどうだ？

|            |              |
|------------|--------------|
| 入門バンドの制定   | 定食化          |
| 入門バンドの環境整備 | キレイにしておく     |
| 入門バンドの管理   | 不相応な運用をさせない  |
| 入門バンドの清掃   | 不相応な局の即時排除   |
| 入門バンドの保護   | 不適應な局の認知     |
| 入門バンドへ再来場  | また来てもらうための準備 |

50MHz を入門バンドと定義して どの体験運用を見ても  
50MHz が体験できて同じ無線機があって同じ仲間と交信ができる  
こにより実際に運用を始めても 50MHz でオンエアしてもらえるようになれば入門者通しの交信も可能になる。

体験運用を始めて すべての始まりを 50MHz にすることによってスムーズな門戸を作る  
50MHz を入門バンドへ